

F その他

1 「先輩、教えて！講演会『私と化学』」

(1) 研究開発の課題（概要）

本校卒業生である植田桐加さんが、本年度7月に、「2011年ロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞」を受賞した。そこで、8月に、植田さんの所属する研究室を訪問して、快挙を祝すとともに、生徒の生き方や進路選択の参考となるように、全校生徒に対して講話を依頼した。

(2) 仮説（ねらい、目標）

植田さんは、本校がSSH事業を始めた平成15年度の3年生である。彼女は質問に答えて、（平成14年度SPP事業で）名古屋大学理学部の篠原教授のカーボンナノチューブに関する講演を聞いて、「それまでは知識の羅列や暗記科目と感じていた化学が、講演によって諸知識が結び付くのを感じ、化学の有用性にとっても興味を持った」と答えている。そしてこれが化学を志すきっかけとなったと話している。

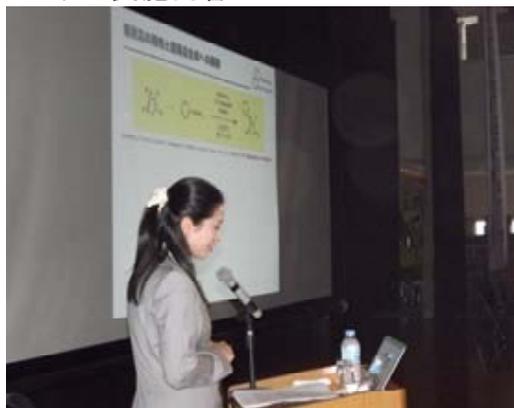
SSH事業を聞いて興味を持った生徒が意欲を高め、高まった意欲が研究者へと生徒を引き上げる。これは本校のSSH事業が目指している展開である。その理想を実現させた植田さんには、その体験談を、是非、直接生徒に伝えて欲しいと考えた。また、同時に、理系研究者を目指す女子生徒を励まして欲しいと考えた。

(3) 研究の方法・内容

ア 対象生徒 全校生徒 1,080名

イ 実施日程等 日時 平成23年10月20日(木) 場所 本校体育館

ウ 実施内容



講演中の植田桐加さん

演題 「私と化学」

講師 植田桐加さん（本校を平成16年3月に卒業）

2011年ロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞受賞、現在は名古屋大学 理学研究科 物質化学専攻（化学系）博士課程に在学中

内容

- ・高校での生活と化学に興味を持ったきっかけ
- ・化学を学ぶ面白さ
- ・取り組んでいる有機化学合成の研究（発明した新しい反応経路によりアルツハイマー病の薬等が簡単に安全に作れるようになった）
- ・後輩へのアドバイス
「一期一会を大切に、好きなことを見つけて将来につなげて欲しい。」

(4) 検証（成果と反省）

ア 事業を終えての感想

強い意志を持って実験に取り組む姿勢が伝わり真剣な雰囲気にも包まれた。また、先輩の講話を生徒達は自分のことのように受け止めていた。先輩に体験談を話して頂く事業は、後輩にとって受け入れ易く有意義なものになることを改めて感じた。

ロレアル-ユネスコ女性科学者賞とは

物質科学と生命科学の分野で優れた研究成果をあげた女性科学者の卵（博士課程の大学院生）に贈られる賞。パリに本部があるユネスコとロレアルグループ（世界最大の化粧品メーカー）が世界規模で展開している「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」の国内賞。